

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

小城市牛津小学校

今年の4月、6年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。ただ、本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年と限られた学年が対象であり、教科も国語科、算数科・数学科、理科に限られています。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、それをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語科、算数科、理科以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めていきます。

■調査期日

令和4年4月19日

■調査の対象学年

小学校6年生児童

■調査の内容

(1) 教科に関する調査

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査
- ・国語科、算数科、理科への興味・関心、授業内容の理解度、自宅学習や読書、ゲーム等の時間など

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・知識・理解については、やや下回っており、文章の中で漢字を正しく使うことが課題となっている。
- ・思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じであり、特に登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることや、登場人物の相互の関係について、描写を基に捉えることは県平均をやや上回っている。その反面、表現の効果を考えることには課題がみられる。
- ・長期記憶が苦手な児童が多いので、これまで同様、継続して復習に取り組ませる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することはおおむねできている。 ・漢字の設問は、全体的に県正答率より下回っている。 ・漢字については、短期記憶になってしまい、習得には困難を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばタイムを継続することで、多くの言葉や漢字に触れる。 ・接続語や接続詞などを豊富に扱う問題集を活用することで、言葉の特徴や使い方を習得し、活用できるようにする。 ・漢字については、小テストを定期的に行い、問題数をこなすことで使い方に慣れさせる。 ・日常的に漢字を使う場面を意図的に仕組む。 ・新出漢字だけではなく、今まで習った漢字も継続的に復習させる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りは、県平均とほぼ同じで、他の設問より正答率が高い。 ・条件に合うように書き換える問題が県平均を大きく下回っている。無回答率も高い。 ・読むことに関しては平均より、大きく下回っていて、どの教科においても読むことに苦手意識を感じている。 ・話し手の意図を聞き取ることができず、話の中心を捉えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量を増やす取り組みを行い、多くの本に触れさせる。 ・学習のふり返りで文字数を限定したり、使う言葉を指定したりすることで、条件作文を書くことに慣れさせる。 ・自分が書いた文章を「つぼみタイム」で友達と交流し、友達の書き方を知ることで、様々な表現方法や書き方を知る。 ・文型や定型文を示すことで、どの子も取り組めるようにする。 ・国語だけに限らず、他教科においても話し合い活動「つぼみタイム」を取り入れる。

【ご家庭では】

- ・音読や読書の時間を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで言葉の意味や使い方を理解したり、要点や著者の意図を捉えたりすることができるようになります。国語科だけでなく、すべての教科にとって必要な力であり、学力向上に欠かせない力です。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・全体的に、全国平均・県平均とほぼ同じである。
- ・問題の後半になるにつれ誤答率が上がっており、問題解決に時間がかかっていることが伺える。
- ・知識・技能より思考・判断・表現の問題につまずきが多い傾向にある。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域は、全国・県平均を上回っている。被乗数に空位のある乗法計算、最小公倍数はよく理解できている。 ・「変化と関係」領域の百分率やテープ図から割合を導き出す問題はよく理解できている。しかし、数量が変わると割合も変わると考えている児童が7割程度いる。 ・「データの活用」領域では、表の仕組みを読み取ることができていない。 ・「図形」領域では、プログラミングの技能面に課題がある。図形の内角と外角の区別が難しいと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算を間違ったり、グラフを正しく読み取れていなかったりすることについては、問題の解決方法を順序だてて考えることができるようにする。そのために、「つぼみタイム」の中で、自分の考えを順序だてて説明できるような手立てをとる。 ・プログラミング技能については、Scratchなどのソフトを使った図形の描画や四則計算のプログラミングなどを行う。 ・約分をしなくて正答となったものも多かったため、答えを出した後、約分をするところまで身につけさせていきたい。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域では、示された場面を解釈し、除法で求める理由を記述して説明することが難しい。 ・「変化と関係」領域では、比例の考え方を理解し、比例の関係をを用いて未知の数量を求めることができていない。 ・「図形」領域では、正三角形の性質を理解し、回転の大きさに着目して正三角形を構成することが難しい。イメージしたことを記述して説明することが難しい。また、プログラミングによる図形の書き方があまり分かっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング通りに作図をイメージし、角度が足りないことや長さが違うなど、おかしい部分を考えられるようにする。 ・実際にさせてみて、失敗から正答を導き出させる授業を行うようにする。 ・答えの求め方を口頭で言わせるだけでなく、ノートにきちんと書かせる指導を行う。ただ、記述にて答えることに抵抗がある児童も多いため、単に答えを求めるだけではなく、その過程に着目できるような学習過程を組む。その道筋を「つぼみタイム」の中で話すことができるようにする。

【ご家庭では】

- ・算数科で学んだことを生活の中で生かす場を積極的につくってください。料理をするときの計量、お菓子を分けるときのわり算、お風呂で水のかさ比べ、家の中で図形探しなど、少し意識するだけで算数遊びができる材料があふれています。親子一緒に算数遊びを楽しんでみてください。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 理科 》

全体の概要

- ・全体的に全国平均をやや下回っている。特に「思考・判断・表現」では大きく下回っている。
- ・問題の後半や記述式の無回答率が少し多くなっており、全ての問題に取り組めなかった児童もいる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「エネルギー」を柱とする領域の「光の性質」に関する問題は、県平均を大きく上回る。 ・実験器具や、昆虫の体のつくりなど、実験や観察を実際に行った経験のあるものの名称は正しく身に付いている。 ・実験器具の正しい扱い方が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく実験を行ったり、普段の生活に結び付いたりしたものは、定着しやすいことが分かった。実験や観察を授業内で終わらせるのではなく、普段の生活にも結び付けるような仕掛けが必要である。 ・実験の中で使える器具は、積極的に使うようにし、正しい扱い方や手順を確かめながら扱うようにする。 ・主要な器具の扱いは、何度も見ることができるよう掲示をしておく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・数値のみの簡単な表の読み取りをし、それを基に説明することができる。 ・「すべて」や「～であれば、」等の条件付きの問題文を正しく読み取ることを苦手としている。 ・問題文や選択肢が長文になったり、複雑になったりしたとき、文章や表から必要な情報を取捨選択できていない。 ・経験の少ない内容や、教科書には出てこない新しい分類の仕方等が出てきたときに、正しく考察することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解き方や、実験の仕方を考えさせてから取り組むようにする。 ・普段の授業や生活の中でも、条件付きの問題に取り組む、慣れさせていく。 ・一つの物事に対して、多角的な見方をするための話し合い活動を仕組んでいく。 ・実験や観察から分かった「気づき」から、「問題」を立てる経験を、繰り返し積んでいけるようにする。

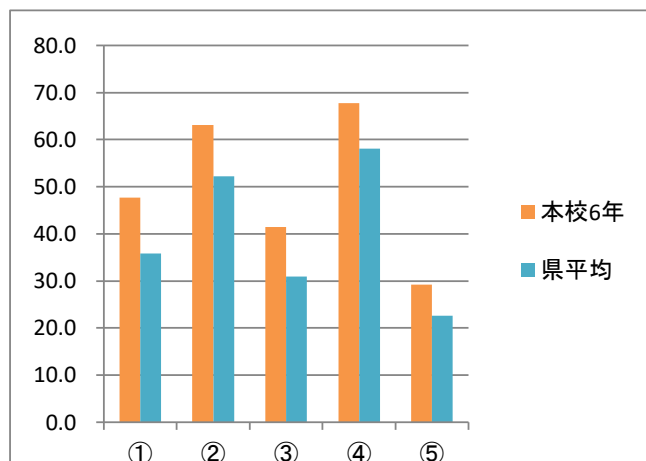
【ご家庭では】

- ・理科についても、星空を見上げる、窓の結露の観察、生物や科学のテレビ番組視聴など、学習したことと日常生活での現象を結び付けると興味をもったり、理解が深まったりすることもあります。佐賀県立宇宙科学館や博物館などへ足を運んでみるのもいいと思います。

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】

調査の項目	
①	国語の授業内容はよくわかりますか。→「当てはまる」
②	理科の勉強は大切だと思いますか。→「当てはまる」
③	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。→「当てはまる」
④	毎日、同じくらいの時間に起きていますか。→「している」
⑤	授業で自分の考えや発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。→「発表していた」



分析と取り組み

◆国語と理科に関しては、授業や学習内容的に「分かる」と感じている児童が多く、意欲も高いことが分かるが、算数に関しては同等の結果が見られず、苦手としている児童が多い。

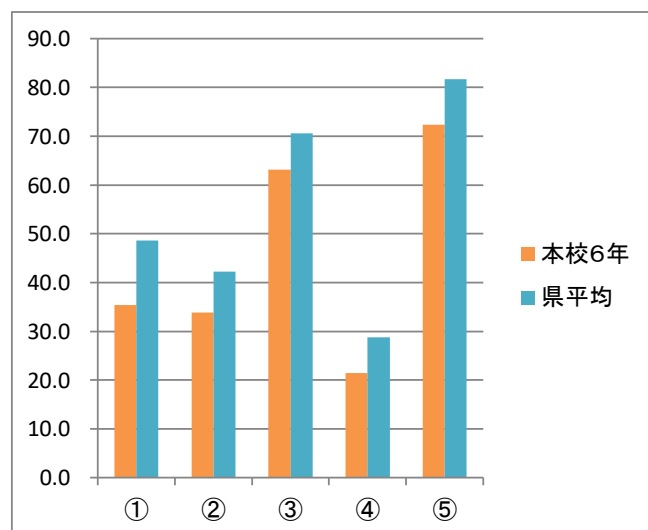
◆学校や地域に先生や大人がいることで、安心して学校生活を送ることができているようだ。SCや地域との連携を深めていくようにしたい。

◆起きる時間は規則的であるようだが、「朝食を食べていない、あまり食べていない」児童もおり、課題を感じる。朝食を摂ることの大切さを児童や家庭にも伝えていきたい。

◆授業に、話し合い活動「つぼみタイム」を取り入れていることで話す力が付いてきていることを児童も実感していることが分かる。

【数値が特に低かった項目】

調査の項目	
①	放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いですか。→「家で勉強や読書をしている」
②	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。→「当てはまる」
③	友達と協力するのは楽しいと思いますか。→「当てはまる」
④	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきましたか。→「当てはまる」
⑤	今回の理科の問題では、回答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。→「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。」



分析と取り組み

◆①の項目について、県平均を大きく下回る回答が多かった。放課後や休みの日に自主的に勉強や読書をする児童がかなり少ない状況にある。家に本が少ないことが理由の一つとして、考えられるため、学校の図書館の利用を促していく。また、児童への指導とともに、家庭への啓発を行っていく。

◆②の回答や「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。」において、「分からないことはそのままにしている」と回答している児童が多いことから、自分で別のやり方を考えたり、調べたりすることが難しい児童が多いことが分かる。ICT機器の利用について肯定的に捉えている児童が多いことから、タブレット端末等も積極的に利用しながら、調べる活動を増やしていく。